

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792700110		
法人名	医療法人 小池外科		
事業所名	グループホーム大正鶴町		
サービス種類	グループホーム大正鶴町		
所在地	大阪市大正区鶴町1丁目18番1号		
自己評価作成日	令和5年7月5日	評価結果市町村受理日	令和5年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様、ご家族様が安心して生活が送れるよう支援している</p>

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

<p>https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2792700110-00&ServiceCd=320&Type=search</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)
訪問調査日	令和5年7月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>施設は、大阪シティバスのバス停がすぐ側にあり、利用者が散歩に行く範囲内に公園やコンビニがある便利な立地です。玄関入り口付近には種類毎の鉢の中、メダカが泳ぐ姿が見られます。さらに玄関から続く1階フロアにも様々な生き物たちが大きな水槽や飼育スペースで過しています。小さな生き物を見たり、水槽をみることは、利用者の癒やしや「しっかり食べて元気に過さない」とこの子(亀)にご飯をあげない」と生活のほりあいにも繋がっています。勤務年数の長い職員が多く、子どもを育てながらも働きやすい職場環境は、知人にも就職先として紹介することができると、職員は自慢しています。コロナを経験し閉塞された中で、利用者が過しやすく笑顔が絶やさないことをめざし、いろいろな学びもありました。食事中の利用者どおしの会話も弾み、お互いの気遣いもみられます。今後、施設の強みのひとつ、アクアリウムで地域との関わりの広がりが期待できるグループホームです。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示している	理念は玄関に掲示されています。職員は法人理念の中の「笑顔がいっぱいのホーム」「主体性を尊重し、その人らしい生活を送れるホーム」を心に置き日々のケアを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来ていない	子どもを通して夏祭りのPRをしています。地域の回覧板に事業所の名前をいれることで宣伝にもなっています。今後もさまざまな機会を通して地域とのつながりを増やしていく予定です。	1階の水槽の配置を整理、動線を工夫して、日程を決めて地域に解放されてはいかがでしょうか。小さなアクアリウムとして地域交流の場になります。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出来ていない	自治体に声かけをしています。	利用者の後見人にも協力の声かけを行い、市町村には民生委員の紹介依頼をされてはいかがでしょうか。早急に地域からの参加者を選定し、2カ月に1度会議を開催することが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談の受け入れを行っている	グループホームの連絡会は開催・参加していませんが、今後も市町村と連携を図り、介護相談の受け入れも継続的に行なっていきます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や勉強会の開催	虐待防止マニュアルを整え3カ月に一度勉強会を開催しています。夜間の見守りとして足下にセンサーをおき、使用については家族にも伝えていきます。	研修のレジメや資料、職員の気づきや感想などの記録を残されてはいかがでしょうか。次回の研修内容を検討する上での参考や、学びの証となり、蓄積されていくことでしょう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	指針を作成し定期的に研修を開催している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、個々に説明し同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、ご家族様の質問、意見があった場合、上司への報告を行っている	対面での機会が減少しているため、電話連絡の時に意見を聞くようにしています。書類を送るときには、日常の様子を写した写真を添えて送り、家族からは喜びの声が寄せられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者ノートを作り、意見や要望記入してもらう	各フロアのミーティングで意見を伝えていきます。意見の違いがあるときは管理者が聞くようにしています。管理者ノートを作り要望を出しやすくしていますが、直接伝えることが多く、職員の家族の急な状況にも快く対応できる、働きやすい環境が整っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修費の負担など働けるように支援している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム管理者と連絡し情報交換をしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段会話から不安な事、心配している事を知り職員間で共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調不良や何かある時以外も面会時などに本人の近況を伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態を見極め何が必要か医療機関の意見も参考にし支援サービスを取り入れている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や料理等、出来る事は入居者と一緒に行う		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が安心して生活が送れるようにご家族様と協力しご家族様の近情を報告を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人にはご家族様と相談して面会されている	家族了承のもと、友人や知人から差し入れなどがあります。利用者の昔の話に耳を傾け、記憶を引きだせるようにしています。散歩の時に近くの住民から咲いている花をもらったりすることがあり、新しい馴染みもできています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物たたみやゲームなど一緒にして頂き、入居者同士で会話など共同生活が送れるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の際に家族様に何か困った時は連絡くださいと伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話から情報を得て情報を共有している	本人の好きなキャラクターで居室を飾っています。行事ではノンアルコールを提供していますが、家族からのアルコール差し入れは可能です。認知症であるがため、日々の気持ちの揺れや変化が多く見られますが、時々の利用者に向き合い寄り添っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時などにご家族様からも聞き取りを行いこれまでの生活の把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	少しの変化も職員間で報告を行っている	3か月に一度プランの見直しをしています。介護計画は遅出の職員が毎日実施状況の結果をチェックし、職員に周知しています。モニタリングやカンファレンスの記録は現在整備されていません。	職員でプランの実施状況をチェックしていますが、カンファレンス等の記録が作成されていません。ユニット毎のミーティングの記録の作成を工夫して行い、定期的な支援の振り返りの実施を検討されてはいかがでしょうか？

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常記録とケアプラン記録を分けて記録している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様が受診困難な時、送迎、病院の受診を行う		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療を行っている。	医療法人小池外科より月2回の訪問診療があり、24時間オンコール体制、また往診日以外もかかりつけ医の看護師と連絡を取り合い、健康管理と共に医療連携体制を整えています。週1回の訪問歯科もあり、口腔内・義歯・舌の管理ができています。入居前からのかかりつけ医への継続受診も可能です。この際、家族の都合がつかない時は職員が付き添い対応しています。往診や受診の結果は電話にて家族へ報告をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診日以外もかかりつけ医の看護師と連絡を取り合い健康管理を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族様と医療機関と連絡を取り合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に記載し同意を得ている	入居時には、利用者・家族に重度化した場合や終末期に関して、重要事項説明書にて説明を行い、同意を得ています。現在、看取りはしていますが、「看取り介護、終末期に見る死の兆候とは」を関連動画付きで勉強会をしました。重度化とは口から食事が摂れない、飲み込みができなくなった状態を目安としています。また医療的行為が必要になった場合も含みます。食事形態でキザミ食やミキサー食、また医師の指示のもと総合栄養剤エンシュアを用いることができます。重度化や状態が変化した場合、その都度家族に伝えて意向の確認を行い、希望する施設や病院の紹介をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会やマニュアルを制作している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの制作をしている	非常災害時の火災編・天災編の対応マニュアルを作成しています。出火場所の確認や消防署への連絡、利用者の安否確認等、手順を記載し分かりやすくしています。避難訓練は年2回で、1回は消防署の協力を得て行っています(書類不備のため口頭確認)。今年は9月に予定しています。消防署へは携帯電話で報告しています。災害発生時の非常食や飲料水の備蓄は1階フロアにて管理しますが、調査訪問時には、食品は期限切れ処分後のため確認できていません。	避難訓練の実施状況が記録にないので、記録に残し管理することや非常食品の消費期限の確認も求められます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を開催している	排泄介助時や入浴介助時のプライバシー保護マニュアルなど、様々な認知症高齢者ケアマニュアルを作成し研修をしています。個々に関わる声掛けは、本人の近くに寄って、小声ですよう心掛け、日々の関わりの中で、親しさや馴れ馴れしさとの言葉遣いの違いにも注意しています。朝食の食事時間も自己摂取できる利用者には、本人の意向を聞いた上で対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に意思確認を行い判断して頂く		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた起床時間や出来る限りの「食事」の提供をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度散髪屋に来ていただきカット等をして頂く		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理を行い出来る範囲で後片付けを行います	調理は3食ホーム内で職員が手作りしています。メニューは日々利用者と話し合いながら決めていますが、日曜日のみ「お楽しみメニュー」として前もって決めていません。食材の買い出しはまだコロナが収束していないため、主に職員だけで行なっていますが、近くの場合は利用者で行く事もあります。食事作りやキッチンでの片付け等を一緒にすることで、個々出来ることの維持に努めています。現在、食事はパーテーションを利用し職員も利用者と同じテーブルで食べています。家族と外食を楽しむ利用者もいます。誕生日会、お花見、敬老の日、クリスマス会等、イベント時は弁当やちらし寿司、寿司の出前を取るなど趣向を変えて利用者にも喜ばれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎日記録し低下や減少が見られたら、食事、水分お工夫して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認し声掛けを行っている	基本、オムツなしでリハビリパンツを使用し、排泄チェック表を確認して、トイレでの排泄を支援しています。現在、トイレ誘導で同性介助の希望者はいない状況です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ラジオ体操を行い規則正しい生活を送れるように支援し水分も多く取れるように好みに合わせ提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが体調に合わせて本人の望む日に出来る限り入浴して頂く	入浴は週3回を基本としています。希望があれば毎日でも入浴できます。入浴を拒む利用者には毎日声掛けをしても入浴に繋がらないので、そっと待ち、「1週間入っていないから入る」と自ら思い立って入浴できた事例があります。現在、同性介助の希望者はいない状況です。利用者は希望で好みのボディシャンプーなどの持ち込みができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが本人のペースにて臥床して頂く		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態変化があれば往診時に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの趣味が継続して出来るように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じてもらえるように季節ごとの行事を行っている	屋外の散歩はすでに再開している状況です。散歩では近隣の方々や小さな子どもたちに会うこともでき、刺激にもなっています。近くの公園へも出かけ、お花見などで季節を感じられるようにしています。7月は久しぶりに夏祭りを開催し、その飾りを利用者と一緒に作成し準備を楽しんでいます。現在は家族との外出や外泊もできます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人等に電話を掛けたい時は意向に沿っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓際にソファを置き、外を見ながら季節感を感じてもらい、湿度、温度に気を付けて過ごしやすい空間に努めている	玄関入り口にはメダカ、館内では亀やトカゲ、ウーパールーパー等、小動物で賑わっています。廊下の水槽の亀の世話をする利用者もいます。いつでもゆっくりとくつろげるように、窓際にソファを設置しています。壁には季節を感じる壁飾り、祭りの張り紙や行事の写真などが貼られて居心地よい空間となっています。リビングのカウンター越しのキッチンからは、ご飯の炊ける匂いや食事の準備の音が聞こえ、自宅に居るような生活感が漂っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を固定せずに誰もが好きな場所に座れる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と相談しながらテレビ等の配置作りに努めている	居室にはベッド・カーテン・クローゼットをホームで設置しています。利用者が使い慣れた馴染みの物を持参することで、その人らしく居心地よく過ごせる居室づくりに工夫しています。家具や仏壇、写真、テレビ、冷蔵庫等、持ち込むことができます。中にはお気に入りぬいぐるみを小ささまさま置き楽しんでいる利用者もいます。居室間違いがないよう、入り口ネームを大きめにし分かりやすいようにしている部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアに今日の献立、日にちをホワイトボードに書き自立した生活が送れるようにしている。		